

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492000086	事業の開始年月日	平成22年5月1日	
		指定年月日	平成22年5月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ平塚徳延			
所在地	(〒254-0902) 神奈川県平塚市徳延177-1			
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果 市町村受理日	平成30年4月18日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・平塚徳延はグループホームだけでなく、小規模多機能型居宅介護と2つのサービスが併設されています。グループホームだけの環境と違い、行事や日々の生活の中でも交流を持ち大切にしています。季節の行事や花見などのドライブも実施しています。  
・アコーディオンやバンド、音楽療法を通しての行事も行っています。地域のボランティア、ミモザコミュニティいこいこ開催など企画しています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成30年3月28日	評価機関 評価決定日	平成30年4月12日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b>                  ◇地域に密着した日常生活の支援                  事業所へは毎月、傾聴や習字、お話相手のボランティアに加え、幼稚園児や保育園児も訪れて利用者と遊んでいる。また、中学生が体験学習をしながら利用者と交流しており、地域に密着した変化のある日常生活を支援している。                  ◇充実した職員への研修体制                  職員には接遇をはじめ感染症防止、薬の知識、虐待防止やプライバシー保護など、月別にテーマを定めた「職場30分研修」が、新人職員には、介護技術の習得を目指す「エルダー制度」があり、全職員が研修で介護現場で必要な知識、技能を習得してケアに反映している。  <b>【事業所が工夫している点】</b>                  ◇職員間での利用者の思いや意向の共有                  職員は日常会話や家族来訪時に把握した利用者の思いや意向を、業務日誌に記載し一週間分を綴じ、全職員が内容を確認してケアに反映している。                  ◇重度化、終末期ケアへの備え                  薬剤師による「お薬勉強会」、経験者による「ターミナルケア」「メンタルケア」を職場30分研修で学び、日常のケアだけでなく重度化・終末期への支援にも備えている。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ平塚徳延
ユニット名	あやめ壺番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミモザの「温かい介護する家庭」に合わせ徳延の「ご利用者に合った丁寧な介護」を実践できるよう日々情報交換・研修を重ねている。	・理念の「丁寧で温かい介護」「地域に信頼される施設」を念頭におき、スタッフ会議、ケアカンファレンスで支援が理念に沿っていることを確認している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	平塚元気ポイント受け入れ事業所となってボランティアの受け入れをしている。 市内の保育園児と行事を通してふれあい交流をしている。 ミモザコミュニティいこいこ開催	・職員は利用者と一緒に、地域の商店街や市場で食品や衣料品の買い物をしている。 ・傾聴、習字、裁縫などに地域のボランティアや近隣中学生の体験学習を受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者様と一緒に買い物に行き地域とのつながりを大切にしている。 事業所で認知症サポーターの講習会を開催。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見がサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ご家族代表ではなくご家族全員にお知らせしている。 要望を共有しサービス向上に活かしている。	・運営推進会議を2か月ごとに実施している。 ・会議では、事業所の運営状況を説明し、参加者からの意見を運営に反映している。また、地域の行事情報を得て、利用者が職員と参加している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	平塚市のグループホーム連絡会やサービス向上検討部会、研修会へ積極的に参加しサービス向上に努めている。 不明な点は介護保険課、高齢福祉課に都度確認している。 月1回介護相談員を受け入れている	・市の職員と連携して、諸手続きや相談、情報交換をしている。 ・介護相談員2名が毎月来訪し、利用者の相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とは、しないケアについてはマニュアル・研修を通して意識作りに取り組んでいる。 また、日々業務の中でも指導している。	・職員はマニュアルをはじめ、法人研修や事業所の30分研修で身体拘束禁止について学び、ケアに活かしている。 ・安全のため玄関は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用契約書、重要事項説明書に明記している。虐待・拘束の厳禁を各職員に徹底するとともに、研修を通して意識の向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利事業や成年後見制度についての研修に積極的に参加し、職員間においても情報の共有化を図り知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に説明させて頂き、納得・了解いただいて契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中でご利用者様やご家族様との信頼関係の築きに努め、何でも話して頂けるようにしている。	・家族の意見や要望は、運営推進会議や家族の来訪時に聞き、サービスに反映している。 ・散歩や外気浴を多くして欲しいとの要望が多く、出来るかぎり実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議、毎日の申し送りの中で意見交換は行われている。また、日常の中でも随時意見を聞くようにしている。	・職員の意見は、日常の会話やスタッフ会議、ケアカンファレンス、職員の面談時に聞いている。 ・利用者のケア方法、職員間の連絡徹底、休憩時間の設定の提案があり、業務に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの経験・技術は定期的に評価し、給与へ反映させている。また、メンタルヘルスへも配慮しストレスについての研修をし、職場環境への整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「人を育てる」は社是でもあり、職員の研修計画、職場内外の研修を活用している。社内研修センターでは分野別、役割別の研修を通して育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会・サービス向上検討部会などに積極的に参加し情報交換・相互研修を行いネットワーク作りに取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時前の相談時からご利用者様が持っている不安・困難・疑問などお聞きし「傾聴と受容」の姿勢を忘れずに信頼関係を築くよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていること、心配、不安、疑問などお聞きし信頼関係を築き、必要な情報提供をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談いただいた時に入居が適切なのか他のサービスが適切なのか見極め助言させて頂いている。情報の提供は行われており一緒に適切なサービスを探っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相手の立場に立って常に考え、人生の先輩であるご利用者様から様々なことを学び、共に喜び、共に歩むようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の立場に立って考え、日頃の様子を小さなことでも報告させて頂いている。行事への参加機会も作り一緒にご利用者様のことを考えさせて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	今までの大切にしてきた友人や親族と自由に交流できるよう面会を歓迎している。これまで習っていたピアノを入居後も引き続き先生に来ていただき習っている。	・知人、友人、幼馴染みが月1~2回来訪しており、リビングや居室で過ごしてもらっている。 ・手紙や電話の取次ぎを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用様が孤立しないで相互に交流できるよう職員が配慮している。席の配置や声かけ、職員も一緒に会話に入りコミュニケーションとりやすいようサポートしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去したご利用者様のご家族がいつでも相談できるようにしています		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の生活の中からご利用者様お一人ずつの思いや希望を把握するよう努めている。聞き取り困難なご利用者様についても職員の意見やご家族の意向から汲み取るように努め、情報共有している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の思いや意向は、日常会話や入浴時に把握している。</li> <li>・表出困難な利用者には、表情、仕草、声から思いを把握している。</li> <li>・把握した結果は、業務日誌、連絡ノートに記載し、職員間で共有している。</li> </ul>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご利用者様から生活歴やこれまでの暮らしについてお話を聴き情報を得ながら個人の思い、生活を大切にして支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の現状を把握して、一人ひとりに合わせた過ごし方を一緒に考えていけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の現状を把握して、一人ひとりに合わせた過ごし方を一緒に考えていけるよう支援している。残存機能を活かした自立支援が出来るようカンファレンスをしている。また、随時情報共有し状況把握に努めている。	・介護計画は、家族と本人の意見、協力医、看護師、モニタリング結果を事前に把握し、ケアカンファレンスを開催して作成している。 ・計画は3か月と6か月ごとに、必要時は随時見直して、家族の承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録は個別記入し、職員同士が情報共有しながらケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族のニーズや本人の状況に合わせてサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、地域包括支援センター、地域住民、職員が参加する運営推進会議開催、また地域ボランティアの受け入れにより暮らしの中に楽しみを感じていただけるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制をとり月2回の往診、24時間連絡体制整え状況把握に努めている。ご家族の希望を尊重しこれまでのかかりつけ医を利用することも出来る。	・入所前のかかりつけ医の受診を継続している利用者を支援している。 ・協力医の往診（月2回）、歯科医師の往診（希望者、必要時）がある。 ・協力医療機関との間で、24時間の連携体制を敷いている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制の中で週1回の訪問看護において健康相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を密にし早期退院に向け情報交換、相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケアについてはご家族の意向と事業所で出来ることを共有し思いを叶えられるよう支援している。そのために職員の研修は重ねている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の「重度化対応・看取り介護指針」があり、入所時に家族と本人に悦明し了解を得ている。</li> <li>・重度化した場合は、医師、看護師、家族と密に連携し、適切な対応をしている。職員は対応方法について研修で学んでいる。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、職員研修を行い実践力を身につけるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災・災害時の避難訓練、職員に消火器取り扱い訓練を実施。非常時に駆けつけられる近隣職員も多く配置している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間想定を含めて年2回、利用者が参加して避難訓練を行っている。年1回は、消防署職員が立ち会い、指導を受けている。</li> <li>・飲料水と食料は、3日分以上を備蓄している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に対して入居時に契約書で「安心と尊厳のある生活の支援」「秘密保持」を約束している。また職員は自尊心を大事に尊重した言葉かけを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は接遇、プライバシーの保護を事業所内30分研修で学んでいる。</li> <li>・利用者の入所前の生活歴を把握し、その人らしさを尊重した言葉かけや対応で、信頼関係を築いている。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、毎日の過ごし方、洋服など随時、ご利用者様が自分の思いを表せるようまた、引き出せるような働きかけにより自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様は自分のペースで過ごせるよう尊重し見守っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。また理美容についてもご本人の希望を取り入れている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様には下ごしらえを手伝って頂き、日々の中でご利用者様の嗜好を聞きだしメニューに反映できるようにしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は食事介助をしながら、利用者と一緒に食事をしている。</li> <li>・利用者は下ごしらえやテーブル拭きを手伝っている。</li> <li>・クリスマス会では、利用者がカレー作りに参加して楽しんでいる。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状況、状態を常に観察しまた今までの習慣を家族におききして水分量・食事を確保できるよう支援している。献立は栄養バランスに気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さは研修を通して理解を深め声かけ、見守り、一部介助、介助とご利用者様の状況に応じた支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをつかみ誘導することにより極力トイレでの排泄を促している。がご本人の状況で合った利用方法を常に検討。失敗してもプライドを傷つけないよう配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄チェック表で排泄パターンを把握しトイレ誘導しており、失敗が減った利用者がいる。</li> <li>・夜間は利用者の睡眠を妨げないように気を付け、必要なときのみパット交換、トイレへ誘導している。</li> </ul>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様の排便リズムを把握し服薬調整すると共に、薬に頼らず食事の献立を工夫、運動や水分補給にも心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりのタイミングにあわせて入浴して頂いている。ゆず湯や菖蒲湯など季節の行事ともあわせている。またお好みの入浴剤や湯温で入浴し楽しんで頂けるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴は週2回を基本とし、会話をしながら無理なく誘導している。</li> <li>・入浴剤、季節の柚子湯や菖蒲湯を楽しんでいる。</li> <li>・利用者の状態に応じてシャワー浴、リフト浴を支援している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安や心配でなかなか入眠できないご利用者様には職員が話し相手となり安心して頂く。 個々の生活習慣を大切に、ハーブティーなどの安眠できるよう提供している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は各御利用者様の服薬している薬については目的・副作用について勉強し、特に作用・副作用にかんしては留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御利用者様の生活歴や能力に応じて役割のある生活が送れるように支援している。 またボランティアの導入により楽しく過ごして頂けるよう支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良いときは近隣への職員の買い物し同行して頂いている。 月に1回は花見やドライブなど外に出かける機会を設けている。 また、ご家族様との外出も出来るよう支援している。	・天候の良い日は、外気浴をし、近隣の神社や商店街、スーパーに出かけている。 ・家族も参加して花見、イチゴ狩りにも出掛けている。	利用者の健康の維持、気分転換のため、今後とも散歩、外気浴の継続が期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御利用者様は普段お金を所持していないので七夕祭りなどの機会には好きな買い物が出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ちご家族と自分のタイミングで連絡が自由に取れるようにしている方もいる。手紙も自由にやり取りできるように支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングではテレビを見たり、談笑したり、ソファでくつろぐなど思い思いに過ごせるよう心地よい空間を支援している。季節の花など飾り、季節感を感じていただけるよう工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リビングは明るく、温湿度が管理され、清掃が行き届いている。職員と作成した作品を壁に飾り、季節感を取り入れている。</li> <li>・利用者はパズル、塗り絵などを楽しみ、洗濯物たたみなど可能な範囲で手伝いをしている。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様は自分のペースで過ごせるようにしている。が、席の配慮や仲介することで孤立することなく関係作りがスムーズに行くようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室についてはご自分の家となるようこれまで使用していたものや好きなものを飾り心地よい空間作りを支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エアコン、クローゼット、カーテンが備え付けられており、利用者は家族の写真、タンス、椅子、机、その他馴染みの物を持ち込んで、居心地よい居室にしている。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーを意識した建物で車椅子、シルバーカーなど使いやすいように作られ工夫されている		

事業所名	ミモザ平塚徳延
ユニット名	あやめ式番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミモザの「温かい介護する家庭」に合わせ徳延の「ご利用者に合った丁寧な介護」を実践できるよう日々情報交換・研修を重ねている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	平塚元気ポイント受け入れ事業所となってボランティアの受け入れをしている。 市内の保育園児と行事を通してふれあい交流をしている。 ミモザコミュニティいこいこ開催		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者様と一緒に買い物に行き地域とのつながりを大切にしている。 事業所で認知症サポーターの講習会を開催。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ご家族代表ではなくご家族全員にお知らせしている。 要望を共有しサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平塚市のグループホーム連絡会やサービス向上検討部会、研修会へ積極的に参加しサービス向上に努めている。 不明な点は介護保険課、高齢福祉課に都度確認している。 月1回介護相談員を受け入れている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とは、しないケアについてはマニュアル・研修を通して意識作りに取り組んでいる。 また、日々業務の中でも指導している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用契約書、重要事項説明書に明記している。虐待・拘束の厳禁を各職員に徹底するとともに、研修を通して意識の向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利事業や成年後見制度についての研修に積極的に参加し、職員間においても情報の共有化を図り知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に説明させて頂き、納得・了解いただいて契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中でご利用者様やご家族様との信頼関係の築きに努め、何でも話して頂けるようにしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議、毎日の申し送りの中で意見交換は行われている。また、日常の中でも随時意見を聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの経験・技術は定期的に評価し、給与へ反映させている。また、メンタルヘルスへも配慮しストレスについての研修をし、職場環境への整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「人を育てる」は社是でもあり、職員の研修計画、職場内外の研修を活用している。社内研修センターでは分野別、役割別の研修を通して育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会・サービス向上検討部会などに積極的に参加し情報交換・相互研修を行いネットワーク作りに取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時前の相談時からご利用者様が持っている不安・困難・疑問などお聞きし「傾聴と受容」の姿勢を忘れずに信頼関係を築くよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていること、心配、不安、疑問などお聞きし信頼関係を築き、必要な情報提供をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご相談いただいた時に入居が適切なのか他のサービスが適切なのか見極め助言させて頂いている。情報の提供は行われており一緒に適切なサービスを探っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	相手の立場に立って常に考え、人生の先輩であるご利用者様から様々なことを学び、共に喜び、共に歩むようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の立場に立って考え、日頃の様子を小さなことでも報告させて頂いている。行事への参加機会も作り一緒にご利用者様のことを考えさせて頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	今までの大切にしてきた友人や親族と自由に交流できるよう面会を歓迎している。 これまで習っていたピアノを入居後も引き続き先生に来ていただき習っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用様が孤立しないで相互に交流できるよう職員が配慮している。席の配置や声かけ、職員も一緒に会話に入りコミュニケーションとりやすいようサポートしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去したご利用者様のご家族がいつでも相談できるようにしています		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の生活の中からご利用者様お一人ずつの思いや希望を把握するよう努めている。聞き取り困難なご利用者様についても職員の意見やご家族の意向から汲み取るように努め、情報共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご利用者様から生活歴やこれまでの暮らしについてお話を聴き情報を得ながら個人の思い、生活を大切にして支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の現状を把握して、一人ひとりに合わせた過ごし方を一緒に考えていけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の現状を把握して、一人ひとりに合わせた過ごし方を一緒に考えていけるよう支援している。残存機能を活かした自立支援が出来るようカンファレンスをしている。また、随時情報共有し状況把握に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録は個別記入し、職員同士が情報共有しながらケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族のニーズや本人の状況に合わせてサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、地域包括支援センター、地域住民、職員が参加する運営推進会議開催、また地域ボランティアの受け入れにより暮らしの中に楽しみを感じていただけるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制をとり月2回の往診、24時間連絡体制整え状況把握に努めている。ご家族の希望を尊重しこれまでのかかりつけ医を利用することも出来る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制の中で週1回の訪問看護において健康相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を密にし早期退院に向け情報交換、相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期ケアについてはご家族の意向と事業所で出来ることを共有し思いを叶えられるよう支援している。そのために職員の研修は重ねている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、職員研修を行い実践力を身につけるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災・災害時の避難訓練、職員に消火器取り扱い訓練を実施。非常時に駆けつけられる近隣職員も多く配置している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に対して入居時に契約書で「安心と尊厳のある生活の支援」「秘密保持」を約束している。また職員は自尊心を大事に尊重した言葉かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、毎日の過ごし方、洋服など随時、ご利用者様が自分の思いを表せるようまた、引き出せるような働きかけにより自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様は自分のペースで過ごせるよう尊重し見守っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。また理美容についてもご本人の希望を取り入れている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様には下ごしらえを手伝って頂き、日々の中でご利用者様の嗜好を聞きだしメニューに反映できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状況、状態を常に観察しました今までの習慣を家族におききして水分量・食事量を確保できるよう支援している。献立は栄養バランスに気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さは研修を通して理解を深め声かけ、見守り、一部介助、介助とご利用者様の状況に応じた支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをつかみ誘導することにより極力トイレでの排泄を促している。がご本人の状況で合った利用方法を常に検討。失敗してもプライドを傷つけないよう配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様の排便リズムを把握し服薬調整すると共に、薬に頼らず食事の献立を工夫、運動や水分補給にも心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりのタイミングにあわせて入浴して頂いている。ゆず湯や菖蒲湯など季節の行事ともあわせている。またお好みの入浴剤や湯温で入浴し楽しんで頂けるように工夫している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安や心配でなかなか入眠できないご利用者様には職員が話し相手となり安心して頂く。 個々の生活習慣を大切に、ハーブティーなどの安眠できるよう提供している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は各御利用者様の服薬している薬については目的・副作用について勉強し、特に作用・副作用にかんしては留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御利用者様の生活歴や能力に応じて役割のある生活が送れるように支援している。 またボランティアの導入により楽しく過ごして頂けるよう支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良いときは近隣への職員の買い物し同行して頂いている。 月に1回は花見やドライブなど外に出かける機会を設けている。 また、ご家族様との外出も出来るよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御利用者様は普段お金を所持していないので七夕祭りなどの機会には好きな買い物が出来るように支援している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ちご家族と自分のタイミングで連絡が自由にとれるようにしている方もいる。手紙も自由にやり取りできるように支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングではテレビを見たり、談笑したり、ソファでくつろぐなど思い思いに過ごせるよう心地よい空間を支援している。季節の花など飾り、季節感を感じていただけるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様は自分のペースで過ごせるようにしている。が、席の配慮や仲介することで孤立することなく関係作りがスムーズに行くようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室についてはご自分の家となるようこれまで使用していたものや好きなものを飾り心地よい空間作りを支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーを意識した建物で車椅子、シルバーカーなど使いやすいように作られ工夫されている		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 ミモザ平塚徳延

作成日 平成30年4月12日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	利用者の健康の維持、気分転換のため、今後とも散歩、外気浴の継続が必要である。	外出支援については今後とも継続して取り組む。	気候の良いときは可能な限り散策、外気浴を支援する。	実施継続
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。